

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293000038		
法人名	株式会社 オールプロジェクト		
事業所名	つばさグループホーム ふくふく		
所在地	千葉県君津市貞元459番地		
自己評価作成日	平成30年3月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	平成30年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりが、その人らしい、心安らぐ生活を送れるように支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「つばさグループホームふくふく」は施設の随所に和を取り入れており、趣のある落ち着いた雰囲気となっている。また、隣接施設に、グループ法人のデイサービスや特別養護老人ホームがあり、合同行事での交流や入居者のニーズに合わせた柔軟なサービスの提供に向け連携を図っている。施設の特性を活かし、認知症対応デイサービスを開所しており、入居者と利用者が共に楽しめるよう支援しており、馴染み継続や新たな馴染み関係が出来るきっかけとなっている。地域行事に積極的に参加しており、地域との関わりを深めると共に、法人の行事に地域住民を招待する等、地域交流を積極的に行っている。管理者は施設での実践経験を活かし、地域の研修や会合等で、ケアサービスの推進や講師として活動する等、地域貢献に取り組んでいる。その他、職員の研修参加や資格取得も支援しており、職員の希望・立場・経験・習熟度等に応じた、計画的な人材育成に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが				

02	秋はスライム作り、スライムを育てている (参考項目:28)		3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月実施されるグループ内でのミーティング時に基本方針や理念の復唱を行っている。	「笑顔と心遣いを大切にしています」と言う理念を掲げており、施設内の掲示やホームページ・パンフレットに記載する等、外部への周知を図っている。また、新任職員入職時や会議等を活用して、理念・職員倫理等の理解浸透に努めると共に、法人全体会議時に唱和する等、理念の意識付けがなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には年数回、複数の職員と共に参加している。初詣・祭礼見学等、年中行事を通し、地域交流を支援している。	日頃から地域住民とは、挨拶・声掛け・見学等を行うと共に、地域行事に参加する等、地域との関わりを深めている。また、法人の行事に地域住民を招待する等、地域交流を積極的に行っている。管理者は施設での実践経験を活かし、地域の研修や会合等で、ケアサービスの推進や講師として活動する等、地域貢献に取り組んでいる。地域の幼児との交流行事にも参加しており、世代間交流も図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	君津市生活介護支援サポーター養成事業、認知症キャラバンメイト講師等。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況報告をすると共に、利用者・家族からの意見を頂き改善に努めている。	運営推進会議は、市職員・入居者・家族・法人幹部等が出席し、年4回開催している。会議では、施設の活動報告を行い、施設理解の促進を図ると共に、意見・情報交換を行い、施設サービスの質の向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携は日常的に行っている。認知症対応型通所介護の運営相談や運営推進会議を通して、密な連絡を取り合っている。また、生活支援サポーター研修の講師を担当する等、協力関係を構築している。	日頃から市に対して、運営に関する報告や相談を行い連携を図っている。また、市の委託により法人が生活支援サポーター研修を実施しており、市との協働関係の構築にも取り組んでいる。他にも、グループホーム連絡会を通じて、相互の問題解決に向け連携を深めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の研修を行い、拘束せずに済む介護についての理解を深めている。施錠は行っているが、施設の立地条件から、利用者の安全を第一と考え、ご家族へも説明し、ご理解を頂いている。	身体拘束排除及び虐待防止におけるマニュアル整備・研修・会議を活用して、身体拘束排除及び虐待防止の意義を職員へ周知している。入居者の安全・家族の要望に配慮し、玄関やユニット間の施錠を行っているが、随時、声掛け・見守り・付き添いを行い、入居者の安全で自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループ内ミーティングでの研修を通して、虐待防止について学び、実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修プログラムに組み込まれており、管理者・職員共に理解を深め、支援できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の説明を行い、その場で不安に感じている点については答えている。説明にご納得頂いた後、署名・捺印頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本社・ホーム共に窓口を設けている。利用者様お一人おひとりに担当職員がおり、ご家族への報告や要望をリーダーに報告する等、日頃から心掛けている。	家族の訪問時や電話連絡・運営推進会議時等を活用し、直接意見や要望等を確認している。また、定期的に居室担当者が手紙等で入居者の近況報告を行っており、家族との信頼関係構築に努めている。挙げた意見・要望においては、会議・連絡帳・申し送りを活用し、周知・検討の上、適切な改善に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員に個別の意見聴聞機会を設定し、就労環境の改善に努めている。	定期的に職員会議を開催し、職員からの意見・提案を確認している。また、職員の研修参加や資格取得も支援しており、職員の希望・立場・経験・習熟度等に応じた、計画的な人材育成に取り組んでいる。他にも、会議や連絡ノートへ自由に発言ができると共に、「風呂職人」と書かれたTシャツを職員に配る等、職員のモチベーションアップにも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者ならびに職員に対し、年間を通じた業績評価を設定し、やりがいのある職場作りに努めている。また、内部研修で出された意見を基に、働きやすい環境作りを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時研修を始めとした、社内研修を通し、人材育成に努めている。また、資格取得を広く奨励し、人材資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	賀詞交歓会への参加、介護支援専門員協議会等の活動を通じ、ネットワークの構築を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学をして頂き、雰囲気を感じてもらったり、ご家族やケアマネジャーからの情報収集を行い、信頼関係が築けるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時にご家庭での過ごし方や習慣を伺っている。認知症対応型通所介護を利用して頂く事で、利用時の様子や雰囲気等を伝える様に努めている。		

【千葉県】グループホームふくふく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・家族の要望を含めて、不安な点や要望を聞き、関係作りに努めている。面会時にも、出来る限り要望を伺い、他のサービスを含めて、支援方法を展開するよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活に近い状態で過ごして頂けるよう家事を一緒に行ったり、季節ごとの行事も利用者と相談しながら「出来ること」を見つけ、行って頂くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、近況報告書(行事写真同封)を送付したり、電話連絡や面会時に対応方法や生活状況について相談させて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限はなく、馴染みの方の面会が継続できるように支援している。また、面会簿を使用し、家族や馴染みの方の来苑状況を見て連絡を取る等、関係性の継続に努めている	知人・友人・家族等の訪問は随時受け付けており、馴染みの関係継続に配慮している。また、馴染みの医療機関や理美容の利用等を支援し、馴染みの場への外出も実施している。隣接の施設や認知症対応デイサービスの利用者との交流行事が、馴染み継続や新たな馴染み関係が出来るきっかけとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	談話や共同作業を行う中で、お互いを労わるという良い関係が築けているため、そういう状況を継続しつつ、デイサービスを通して新たな関わりの構築を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要とする利用者様やご家族に対しては、これまでのお付き合いを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を主張できるよう意見を聞いたり、可能な限り思いを引き出す努力をしているが、全てを叶えられてはいないと感じている。	入居時に、本人・家族から意向・身体状況・生活歴等を確認すると共に、医療機関や他のサービス事業所からの情報提供を受けており、より詳細な情報の把握に努めている。居室担当職員を中心に入居者の意向や状況の把握・記録を行い、会議や連絡ノートを活用しながら全職員が新しい情報の共有に取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にチェックシートに記入して頂いている。また、現在は認知症のデイサービスも併用しているため、そうしたサービスの利用を通じて、利用者の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申し送りを通じて、利用者個々についてのカンファレンスを開き、意見交換をしながら、現状把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族の意見を伺い、ユニットカンファレンスやミーティング時に意見を出し合い、見直し、現状に沿ったケアプランとなるように努めている。	本人・家族の意向・ニーズを踏まえた上で、会議にて検討を行い、介護計画を作成している。また、状況の把握・分析や居室担当職員から意見を確認し、現状に即した介護計画作成に努めている。定期的に目標の達成状況の確認及び評価を行い、必要に応じて介護計画の見直しを図っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人記録に記載し、申し送りを行い、情報共有を図り、カンファレンスの際には意見を出し、ケアプランを見直している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的なニーズであっても可能な限り対応できるよう努めている。			

【千葉県】グループホームふくふく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内の子育て支援センター・保育園・隣接するグループ施設を訪問し、交流の機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に沿ったかかりつけ医があり、定期的に往診を受けると共に、急な病変等にも対応できるような体制を作っている。(医師・薬剤師とも24時間オンラインで対応)	希望のかかりつけ医への受診が可能となっており、必要に応じて、職員が通院の付き添いを支援している。定期的に内科医・歯科医の往診を実施しており、適切な医療支援を行っている。必要に応じて、併設のデイサービスの看護師と連携が取れており、適切な健康管理を行っている。協力医療機関及び調剤薬局とは24時間連絡が可能となっており、緊急時や困難事例に対しての体制を整えている。他にも、必要に応じて訪問マッサージを利用する事も可能となっており、入居者の身体機能の維持や向上に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設するデイサービスや特養に連絡を取り、体調変化に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に立会い介護対応連絡シートを提供。退院時には看護サマリーを頂き、入院中の状態把握や帰所後の支援の参考にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の思いを尊重し、可能な限り支援を行い、必要に応じ、かかりつけ医に意見を求め、話し合いのもと、方針を決定する。	契約時に、終末期・重度化における施設方針を家族に説明し、同意も得ている。必要時に家族の意向を確認すると共に、医師・看護師等の関係機関と協議を行い、意向に沿った支援が出来る様な体制を整えている。医療機関や他施設への切り替えが必要となった場合は、関係機関と情報交換を行い、円滑に移行できるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、職員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間訓練想定避難訓練を実施し、全職員が身につけられるよう努力している。地域の方々と共同訓練には至っていないが、利用者家族より、緊急時の協力参加のご意見を頂戴している。	スプリンクラー・火災報知器・自動通報機等の消防設備を設置していると共に、定期的に避難訓練を実施している。訓練では、消防署立会いの下、夜間想定訓練等を行い、適切な避難方法の確認を行っている。また、隣接の施設と合同で訓練しており、緊急時・災害時における連携の強化を図っている。	今年度は3月末に実施する予定となっているが、計画書等も残していないため、今後は、年2回の消防避難訓練を定例化すると共に、計画・実施の記録を適切に保管し、非常時の対策を万全化していただく事を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄時等、プライバシーの確保に注意し、不快な思いをしない声掛けやタイミングに配慮しているが、十分ではないと感じている。	プライバシー保護・接遇・倫理・法令遵守の研修を実施していると共に、会議等を活用して職員への理解促進・周知徹底を図っている。また、「指示的な言語を使わず、問いかけをする」と言う行動指針を掲げており、入居者の尊厳に配慮した接遇に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言動や表情、生活歴から思いをくみ取る努力を行っている。		

【千葉県】グループホームふくふく

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせて、出来る限り希望に添えるよう努めている。職員のペース支援するのではなく、利用者様のリズムで生活できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には本人の意思を尊重しているが、必要に応じ、職員が支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合わせ、食事の準備や片付け等を手伝って頂いている。職員は、毎食同じ食卓と一緒に食事を摂っている。	入居者の希望や能力に合わせて、食事の準備から片付けまで共同で行っている。献立は、栄養士が作成した様々なメニューの中から、担当職員がその都度組み合わせを工夫しながら調理を行っており、栄養バランスに配慮したバリエーションに富んだ食事提供がなされている。また、行事食や特別食の提供・外食会の実施等を通じて、食に関する楽しみも提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量のチェックを行ったり、その方に合わせた携帯で摂取しやすい工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを支援している。自分で行うことが難しい方については職員が支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人に排泄チェックシートを用意し、その排泄パターンの把握に努めている。また、本人の能力に応じて、自力排泄を促す事で、より良い生活支援を展開できるように努めている。	排泄チェックリストを活用し、個々の排泄パターンを把握しながら、トイレ誘導・声掛けを行っており、排泄の自立に向けた支援を行っている。また、食事メニューの工夫・水分補給・運動を取り入れる等、自然排便を促すよう配慮している。必要時には、医師・併設施設の看護師等に相談し、適切な処置及び対応を図っている。	

【千葉県】グループホームふくふく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックシートを用いて、医師と相談のもと、必要な処置を施している。また、食事（バナナ、ヨーグルト等）や飲み物（牛乳等）による予防や対応も支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴支援は毎日行っている。体調や要望に合わせて対応。利用者の状態に応じて、声掛けをしながら支援している。一人ひとりがゆっくりと入浴でき、心身の疲れが取れる様な支援を心掛けている。	入居者の希望や体調に応じて、時間・回数等を柔軟に調整しながら、適切な入浴機会を確保している。また、必要に応じて、清拭・部分浴・シャワー浴等を実施しており、入居者の清潔保持にも努めている。入浴拒否に対しては、声掛け・タイミング・日程の調整等を行い、一人ひとりに合わせた入浴支援を心掛けている。隣接のデイサービスの大浴場の利用も可能となっており、入浴を通じて利用者同士のコミュニケーションを図り、楽しいバスタイムとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースで休息を取って頂けるよう支援している。室温や周辺環境を整え、眠りやすい環境を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師に指導やアドバイスを受け、内服管理をしている。内服チェック表で全職員が薬の確認ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に生活面での役割を作っている。外出や季節の行事を実施し、支援している。医師の許可、家族の要望により飲酒も認めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候に応じ、散歩や外出の機会を作り、気分転換を図る。自宅への一時帰宅や墓参を希望される利用者様や当日の外出希望があるが、家族の協力が得られなかったりと中々、希望を叶えるに至っていない。	日頃から散歩・買い物・ドライブ等の外出を支援すると共に、定期的に外出行事を企画・実施しており、戸外での楽しみを提供している。また、施設敷地内には、芝生の庭やウッドデッキがあり、気軽に外の空気を楽しめる環境が整備されている。その他にも隣接施設との合同行事等で交流の機会があり、入居者の生活の活性化に繋がっている。	

【千葉県】グループホームふくふく

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため、金銭管理は事務所で一括して行っている。外出時等、本人の希望に応じ、使用出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って電話を掛けたり、随時支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度・音・採光に配慮したり、外出の写真や書道等の作品を掲示し、楽しく過ごして頂けるよう努めている。ユニット毎に職員と利用者様で空間作りを行っている。	施設の共有スペースには、椅子・テーブル・ソファ・和室スペース等が設置されており、自由にくつろげる環境整備がなされている。また、季節に合わせた飾り付けや行事毎の写真の掲示等、入居者と職員と共に居心地良く生活できるような環境作りもなされている。その他には、エレベーターやセンサーチャイム等、入居者の身体状況や安全面に配慮した設備が導入されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間・和室・ソファ・デッキ等、自由に利用できるスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、ご家族にお願いし、家具や衣服・食器類等、使い慣れた物や愛着のある物を用意して頂く事をお願いしている。	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの者を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、テレビの設置・布団を敷く事も可能となっており、入居者一人ひとりの生活歴に合わせた居室作りもなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチンからフロアが見渡せ、利用者様の様子が確認しやすい造りとなっている。テーブルや椅子の配置に気を配り、動線の確保をしている。また、廊下、トイレ、脱衣所等には手すりを付け、安全に移動が行える。		